

文化庁「日本博」企画委員会（第4回）議事要旨

【日時】

令和元年9月19日（木） 12:30～14:30

【場所】

文化庁 特別会議室

【委員出席者】

河村潤子委員，河野俊嗣委員（代），コシノジュンコ委員（代），小林達雄委員，小松大秀委員，佐藤雅敏委員，島谷弘幸委員，高階秀爾委員

【文化庁】

宮田長官，中岡次長，今里次長，杉浦審議官，豊城鑑査官，坪田参事官，榎本課長，奥主任調査官，山田新文化芸術創造活動推進室長，山口暮らしの文化アートグループリーダー

事務局から資料に基づき進捗状況の説明。

その後，各委員等による意見交換が行われた。主な発言は以下の通り。

- 日本博をいかに知っていただくかが一番難しく，今後の大きな課題である。
- 一般の方にどうやってアピールするか。日本博を理解していただくためには，その魅力をキャッチフレーズなどの簡単な言葉で伝えられることが必要である。
- 日本博はプロジェクトがたくさんあるので一言でというのは難しいが，日本文化の様々なジャンルをうまくつなげたということを一般の人にうまく伝えることが大事である。
- まだ日本博を知らない人が多い。例えば世界遺産のニュースであればプレスがとりあげてくれるが，日本博はまだそこまで認知度が高くない。もう少し文化庁からも情報提供をしてはどうか。
- ラグビーでは五郎丸選手を大使にして成功している。日本博についても，誰もが知っているような方を大使にするとインパクトがあるのではないか。また，日本博サポーターのようなものを作ると良いのではないか。
- 面白い発想というのは業界外から出てくることもある。SNSで発信力を持っている人を招くなど，外の意見を聞く機会も設けたら良いのではない

いか。

- 目線を変えることも大切である。違う角度から見ると良さが分かることもある。
- こういうことをやりますということを前々から大々的に発信して、記者の方に来てもらう努力をしないと来てもらえない。
- 舞踊だったらこの部分、企画展だったらこの作品といったように記者の人も分かりやすいストーリー性が大事である。
- 各プロジェクトの実施者は自らの事業で手一杯だと思うが、各会場に日本博ブースを必ず設けてくださいと言っても良いのではないか。来ていただいた人に、この事業と日本博がどのような関係にあるのかを説明できるようなものがあると良い。
- コンテンツは重要であるが、これだけたくさんの事業があると目玉が何か分からない。
- それぞれのプロジェクトに行くと感動するものがあるが、やはりいくつか代表的なものをピックアップして発信していくことも大事である。
- 「あなたが作る日本博」などのタイトルをつけて、投票などで代表を決めても良いのではないか。マラソンでいうと沿道で見ている人もマラソンを構成する要素だと思う。
- 現場の声を聴くと、認知度を上げていくためにはなにかイベントで配れるようなチラシとかグッズがあれば有難いとのことである。
- グッズは発信力としてとても大きい。日本博のことが目にたくさんふれると、人は確認に行きたくなるものである。
- 子供をターゲットにすることがとても大事である。子供向けに企画すると大人にも非常にわかりやすい。
- マンガにもっとフォーカスし、発信するべきである。
- 日本博では縄文から現代までと視野を広げているが、その核として始まりは縄文であるということをもっと出しても良いのではないか。
- 縄文（JOMON）は寿司（SUSHI）と同様に国際語になっているので、もっと発信して良いと思う。
- インバウンドの方たちに各地を回っていただきたい。日本博の事業を日本地図に落とし込み、各地でこの時期にはこんな企画をやっているというように一目で分かるようなものがあると良いのではないか。
- 漠然とした情報よりも何か刺さるものが必要であり、どういう情報を提供したらインフルエンサーにささるのかを考えたら良いのではないか。
- 参加型のイベントのようなものがあると良いのではないか。訪日外国人は日本の食が大好きである。

- 外国にいて日本に興味をもっている人たちにアピールすることも大事である。日本国内で良いものを実施するのはもちろんであるが、日本の良いものを海外で実施していくことも重要である。

(事務局より)

- 鉄道会社と協力関係にあった事業では、電車の中でたくさん日本博ロゴマークを目にしたが、これは非常にインパクトがあった。アピールのためには民間企業とうまくタイアップしていければと思う。
- 日本博は既に始まっているが、来年度に向けてはまだ途上である。発信するときどういう人に発信するか、どういうルートで、どういう媒体で発信するか。ターゲティングをしっかりとやっていきたい。
- 来年が本番ということもあり、しっかり対応していきたい。レガシーとして何が残るのかということも重要である。他省庁と一緒に横断的に取り組むことで新たな何かを生みだしていくということも意識していきたい。
- 日本博はまだ始めてから日が浅い事業である。日本遺産は事業開始からしばらく経ち、競争意識がでてきた。日本博についても競争意識につなげていきたい。
- 新潟国文祭内事業「デーモン閣下の邦楽維新 Collaboration 妖気爛漫！坂口安吾」のチラシはとてもインパクトがあるが、このような工夫をしていく必要がある。また、子供たちのことも意識していく必要がある。オリパラのマスコットを選んだのも子供たちであった。そして、鉄道会社、航空会社などともタイアップし、地方巡回するための専用切符のようなものを作るといったことも検討していきたい。
- 2020年が終わってからも色々なテーマで日本を世界に紹介したい。毎年同じだと飽きられてしまうので、どういうテーマでやっていくか考えていかなければいけない。今は素材集めの段階であるが、刺さるものであるとか、キャッチフレーズであるとか、サポーターをどうするかとか、これからしっかりと検討していきたい。
- 日本博は今ある文化財をもっと知ってもらえる事業になる。日本文化を日本人にも外国人にも知ってもらえる機会になればと思う。
- 親しんでもらえる文化庁でありたい。そういう拠点でありたい。その中で日本博を盛り上げていきたい。

(以上)